

ぼくも私も語りたい!

石巻でのカヌー体験 伝わる思い

震災乗り越え海を好きに

かみ水の里の代表新井偉夫さん(80)。1999年7月に法人を設立し、カヌー体験を通じ自然の大切さを伝えていきます。震災の発生4カ月後、津波被害があった市内の萩浜小の児童を対象に、学校側の希望を受けてカヌー体験を行いました。

この様子を、湊小の児童たちは5年生だった今年2月、道徳の授業で学びました。使ったのは校長だった坂本忠厚さん(60)が3月で退職し、文章を書いた紙芝居「波を乗り越えて」です。木村尚寛君は感想文に「津波が来た海の子どもたちに、また海を好きになっただけいい、海が嫌いなまま地元を出て行ってほしくない、という気持ちすごい」とつづります。

周囲の人と協力し浜



カヌー教室で学ぶ石巻市湊小の児童たち
＝昨年7月8日、石巻市の北上運河

をきれいにし、学校や親の思いを受け止めてカヌー体験を実現した姿に、木村尚寛君も「身を粉にして頑張った。本当に地元石巻が好きなんだなと思った」とまとめました。杉浦泰地君は「(子どもは)震災の怖さ、海の怖さ乗り越え、新井さ

んの思いや情熱を受け止めた。震災は怖いけれど、人は協力できる」と指摘します。「津波が来た時、みんなとてもつらい気持ちになっただけだっただろうな」と当時の児童や住民を思いやるのはソヨド・タヒティー・シャルミン

さん。「みんな一人一人が支え合ってすてき」と感じました。



湊小も昨年7月、3年生以上が新井さんと次男高広さん(32)の指導でカヌー教室をしました。高橋由夢さんは「最初は落ちたらどうしようと不安だったが、どんどん乗っているうちに楽しくなりました」と共感します。

自然の驚異を実感したという意見も。高橋莉久君は「津波の怖さと自然はやっばり一番強いんだなとあらためて知ることができた」。日下留香さんは「津波からしっかり逃げられるよう、学校の避難訓練に真剣に取り組みたい」と備えの大切さを挙げました。

人の願いが、どんな時も子どもの学びや地域を豊かにするんだね。

(8面に感想文)

今週の注目ニュース

◇14日(水)、16日(金) 熊本地震から5年
2016年4月、熊本県熊本地方で最大震度7の大地震が2度にわたり発生。同じ地域で震度7の地震が続いたのは初めてで、2度の方が規模が大きかった。熊本、大分両県で276人が犠牲になったんだ。

きょうの紙面

- 2面 こども新聞サミット
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 石巻・湊小の14人 新井さんに感謝

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ